＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

帰国渡日児童生徒つながる会

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第１章　プロジェクトの概要など

１．プロジェクトの名称、目的など

・名称「帰国渡日児童生徒つながる会」

・目的

現在、京都府の学校には、国際結婚の家庭に生まれた子どもや、在日外国人、帰国児童生徒などさまざまな形で「外国につながる児童生徒」たちが点在している。そのような生徒たちは､言葉や文化が違うということから、他の日本人の生徒たちとのコミュニケーションが上手くいかず、クラスで孤立してしまうことも多いようである。そのような生徒たちは、普段お互いに出会う機会を持つことが少ない。そのため、共に出会い、活動することを通して、同じようなことに悩んでいる人がいるのだということを知り、そんな悩みを分かち合える友達を得ることができること、また、一人一人が持つ個性を尊重し、自分自身や自分のルーツに自信を持ち、彼ら自身がその国の言語や文化を大切にできるような場を提供することを目的として､2008 年度よりｅ－ｐｒｏｊｅｃｔを利用し活動を続けている。

つながる会の活動は主に一年を通して春と夏と冬の３回、各数日間行っており、それに向けて週一回程度ミーティングを行っている。つながる会の活動をより多くの外国につながる子どもたちに知ってもらうため、活動日の１・２カ月前にはチラシと申し込み用紙を作成し、京都府内の中学校に郵送している。また、去年から少しずつ進めてきたフィリピン人団体パグアサと合同で、子どもたちの勉強を支援する勉強会(たけのこ会)も月に一度のペースで行っている。

参加者は去年までは、中国にルーツを持つ子どもたちが多かったが、今年はアメリカやフランス、フィリピンなど様々な国とつながりをもっている子どもたちも参加してくれた。参加者は長い間日本に住んでいる、あるいは生まれ育ったという子どもから、渡日して間もない子どもまで様々である。そのため日本語がそれほど得意でない子どももいるが、日本語も中国語も話せる子どもやつながる会の留学生スタッフの力を借りて、コミュニケーションをとりながら活動をしている。

今年は、プロジェクトを初めて５年目になるため、生徒たちの成長や変化という点に着目して、活動を行った。

２．代表者および構成員

・代表者

日下部真依　国語領域専攻　３回生

・構成員

口石　梨絵	国語領域専攻	３回生
児玉　　萌	国語領域専攻	３回生
宮側由加里	国語領域専攻	３回生
劉　　飛亜	教育学専攻	３回生
嵯峨根早紀	教育学専攻	２回生
郭　　煜	教育学専攻	２回生
喜屋武　剛	国語領域専攻	２回生
杉山　貴俊	教育学専攻	２回生

３．助言教員

浜田　麻里先生（国文学科）

第２章　内容や実施経過など

１．夏の活動について

外国にルーツを持つ子どもたちを集めて活動を行うために、毎週１回集まって会議を開き、準備を進めた。以下では、毎週のミーティング等の準備過程を実施経過、子どもたちを集めての実際の活動を活動内容として記す。

〇実施経過

4 月から、毎週木曜日（後期は月曜日）の昼

休みに集まり、ミーティングを重ねて準備を進めた。具体的な大きな動きと経過を下にまとめる。

4月　日程の決定、内容・場所の考案
　　新スタッフ勧誘活動
5月　活動目標・内容の考案
6月　チラシ作成・印刷・発送
7月　下見
8月　直前ミーティング
　　事前活動
　　直前ミーティング
　　買い出し
　　野外活動
　　事後ミーティング

〇活動内容

（1）　1日目・勉強会兼事前活動

子どもたちが初めて集まる日。夏休みの宿題の支援と、26日のカレー作りに向けての顔合わせを兼ねたレクリエーションを行なった。

日時：2012年8月5日（日）
場所：京都教育大学　A1・A3教室
タイムスケジュール

9：30　墨染 or JR藤森 集合
10：00　自己紹介
10：10　勉強
12：00　昼食
13：30　26日の説明
14：00　子どもたちのグループ分け
14：30　カレー作りの話し合い
15：30　ブレイクタイム
16：00　解散

・勉強会について

大学生が隣でサポートをする形で、夏休みの宿題や学習の復習、日本語の勉強などを行った。

・事前活動について

本活動ではカレー作りを行なうため、それに向けたグループ分けと、グループごとにどの材料を使うのかについての話し合いを行なった。

（2）2日目　野外活動

日時：2011年8月26日（日）
場所：希望ヶ丘　東雨天活動場
タイムスケジュール

9：00　大学からバスで出発
10：30　希望ヶ丘到着
11：10　調理開始
13：00　調理終了、食べる
14：00　食べ終え、片づけ終了
15：00　まとめ
15：45　希望ヶ丘発
17：30　大学到着、解散

・バスレク

約1時間バスでの移動があったので、その間を利用してレクリエーションを行なった。内容としては、自己紹介と一筆書きゲームを行なった。

・カレー作り

グループごとに、調理する人と火を燃やす人とに仕事を分担し、カレー作りを行なった。

・まとめ

絵日記を書いた。書く内容として、班員の名前、自分がカレー作りで担当したこと、今日出来たこと、そしてこれから頑張りたいことを必ず含めるよう指示をした。子どもの日本語のレベルによって、定型のものを用意して穴を埋めるだけのものを渡すということも行なった。

２．たけのこ会について

月に１度の割合で、フィリピンルーツの子どもたちに勉強を教える会(通称たけのこ会)を開いた。

○実施経過

5月13日　春のピクニック
5月19日　たけのこ会
6月24日　たけのこ会
7月21日　たけのこ会
9月22日　たけのこ会
10月20日　たけのこ会
11月　3日　たけのこ会

（1）春のピクニック

京都在日フィリピン人コミュニティの京都パグアサの方々と協働し、たけのこ会の普及も兼ねたピクニックを行なった。フィリピンにルーツをもつ子どもたちとその親と共に、フィリピンの遊びを教えてもらったり、日本の遊びを教えたり、河原でランチを食べたりした。

（2）たけのこ会

中京青少年活動センターの一室を借り、パグアサの子どもたち（小5～高1）の勉強のサポートを行なった。毎回14時～17時の3時間程度で、2～7人の子どもが集まった。

３．冬の活動について

冬休みの宿題や受験勉強を行なう勉強会を行なった。また、最後には皆で遊べるレクリエーションを企画し交流を図った。

○実施経過

10月　日程の決定
11月　レク内容考案
12月　買い出し、直前ミーティング
　　冬の活動

○活動内容

日時：2012年12月27日（木）
場所：京都教育大学スキル室
タイムスケジュール

10：00　自己紹介
10：10　１時間目
11：00　休憩
11：10　２時間目
12：00　昼休み
13：30　３時間目
14：20　レクリエーション
　　茶話会
15：30　解散

・勉強会

学校から出された冬休みの宿題を持ち寄ったり、自分の苦手なところの復習を行なったりした。

・レクリエーション

言葉を使わなくても遊べる、椅子取りゲーム（Music Chair）を行なった。

第３章　結果や成果など

１．夏の活動について

（1）1日目・勉強会兼事前活動

○参加人数　子ども　１０人
　　スタッフ１２人

○活動内容

・勉強会

それぞれのテーブルに生徒2～4人･スタッフ1～2人がつく形で勉強会をした。各自、持参した学校の宿題や、スタッフが用意した問題を解き、比較的集中して取り組んでいた。

スタッフも、それぞれの実態に応じて対応したため、一人ひとりが自分の課題に取り組み、スムーズに勉強会ができた。

・事前相談

２日目の野外活動で作るカレーについて、班に分かれて相談した。全部で３班で、それぞれがカレーに入れたい材料やカレーの名前を決め、他の班に発表できるよう画用紙にまとめた。２日目に参加できない生徒も数人いたが､アイディアを出すという形で班に入り、相談に参加した。

班によって話し合いの進度がばらばらで、スムーズに決められている班と、なかなか意

見が出ず話し合いが滞っている班とがあった。話し合いが進んでいない班には、スタッフが数人入ってフォローするなどして、なんとか決めることができた。

話し合いがうまくいかなかった班ができた原因としては、言葉の壁があるだろう。ルーツのある国が中国語圏と英語圏など、言語的な支援が必要であった。また、言葉の壁があるため今まで話したことのなかったメンバーと同じ班になったことも原因と考えられる。相談以外の場面でも、いろいろな言語圏の生徒が混ざりあえる場面を作ったり、活動を考えたりする必要を感じた。

（2）2日目・野外活動

〇参加人数　　子ども　１２人
　　スタッフ１２人

〇活動内容

・バスレク

バスでの移動時間が長かったため、一筆書きゲームを行った。指定されたテーマの絵を、一人一筆ずつ描いていき、チームで一枚の絵を完成させる。そして、回答者が何の絵かを当てるゲームである。

一人一筆ずつ描いてチームで一つの絵を完成させることで、子どもたちの関係をつくっていくことに努めた。子どもたちは絵が得意な子はもちろん苦手な子もひと筆だけでよいということもあったのか盛り上がり、バスの時間を楽しく過ごせたようであった。

・カレー作り

まず、各班で材料や道具を取りに行く係、かまど係、調理係を決めてから、調理に取りかかった。それぞれに役割が与えられていたため、手持ちぶさたになる生徒が少なく、自分の役割を一生懸命果たそうとしていた。

スタッフは、全員が全ての活動の内容を把握できていたため、フォローし合いながら、子どもたちと共に充実した活動ができたと考える。

また、少人数の班で、カレー作りで協力することにより、今まで話したことがなかった生徒同士や、初参加の生徒とも親睦が深められている様子だった。

・まとめ

子どもたちに行った活動の中で一番印象に残ったことを絵日記にかいてもらった。暑い中一生懸命かまどの火を管理したことが印象に残っていた子や、楽しくおしゃべりをしながら野菜を刻んだ場面を描いている子もいた。日本語ですべての文章を書くのが難しい子も数人いたので、希望した子には穴埋め式のものを渡したことで、しっかりと自分の思いを記すことができたようだった。最後何人かの子どもに発表してもらったのだが、今までなら絶対に発表出来なかった子が堂々と大きな声で発表している姿を見ることができた。

２．たけのこ会について

（１）春のピクニック

パグアサの方々の宣伝の甲斐もあり、小学生から高校生まで、多くの子どもたちが集まってくれた。最初から勉強会と名のつくところには行きにくく抵抗を感じる子や親も、ピクニックという形にすることで気軽に参加出来たのではないかと考える。これを機に、たけのこ会にも参加してくれるようになった子どももいるので、ピクニックを開いた意味があったように思われる。また、フィリピンの遊びを一緒に行なうことで、フィリピンの文化にも触れあえたように感じた。

（２）たけのこ会

定期テストの対策や普段の学習で分からないところをフォローするということが出来たと思われる。事前にパグアサの方と連絡をとり､参加者と勉強したい内容を聞いたことで、その対策ができた。子どもたちは特に、数学に苦手を感じており、黒板を写すだけで終わっていることも多いようなので、それを丁寧に解説する必要があった。また、日本語で発表の原稿を書くということが難しいようなので、そのサポートもすることができた。日本に来て間もない子に対する、日本語の学習も行った。

３．冬の勉強会について

（１）勉強会

〇参加人数　　子ども　　９人

　　スタッフ　９人

〇活動内容

・勉強会

夏の勉強会同様、それぞれのテーブルに子ども 2～4 人・スタッフ 1～2 人がつく形で勉強会をした。各自、持参した学校の冬休みの宿題をしたり、スタッフが用意した問題に取り組んだりしていた。集中して取り組んでいる子どもや、友人と話したり相談したりしながら取り組んでいる子どもがいた。

百人一首を覚える宿題が出されている子どもたちは、集まって一緒に覚えようとしていた。しかし中には、日本語の古典ということもあり、意味を伴った理解が難しい様子の子どももいた。

今回は初参加の子どもが３人いたが、すぐに打ち解け、休憩時間にはリピーターの子どもたちの輪に入って学校や趣味の話をしたり、レクリエーションのゲームで一緒に盛り上がったりしていた。他校の子ども同士や男女間のつながりも、以前より深まった勉強会になったようだった。

第４章　まとめや反省、今後の展望など

１．まとめと反省

（１）夏と冬の活動

今年度の活動を通して、私たちは子どもたちが予想以上に成長しているということを感じた。出会ったころは中学校１年生で、なかなかみんなの輪に入れず、周りで見ていることが多かった子が、中学３年生になり、年下の子をリードしてあげている姿や、日本に来

たばかりで日本語も分からず、表情もかたくコミュニケーションをとることが難しかった子も、今回の活動では日本語も大分理解できるようになり、他の参加者に自分から関わりにいったり、笑顔を見せてくれたりするようになった。そのように大きく成長し、年齢を重ね、日本での生活も長くなるうちに、徐々に自分の置かれている境遇と向き合い受け入れ、将来に向かっていこうとしているように感じた。その一方で、言語の面ではコンプレックスを持ち続けている子も多いようで、参加者の中には、「私日本語下手やねん」と流暢な日本語で言ってくる子、日本語を全く話そうとしない子もいた。また、長く日本で暮らすうちに、自分のルーツの国の言葉を忘れてしまいかけている子もいた。そうなると、親とのコミュニケーションが難しくなるという問題も発生してくると考えられる。そこから、日本語支援も必要であるが、彼らが自分の国の言葉を話す機会も同じくらい重要であるということをあらためて感じることができた。

学習支援という面から考えると、参加者たちが、持ってくる学校の課題や受験勉強のなかで、作文や面接練習、自由研究などが特に高いレベルの日本語力を求められるので、しっかりとした日本語支援をする必要があるということが分かった。

（2）たけのこ会

子どもの数に対して、スタッフが足りていないことがある。逆に、日によってはスタッフが多すぎて手持無沙汰になることもある。日にちを決める際に、皆で話し合って決めはしたのだが、直前になると行けないというスタッフが多く、思うように人数がそろわないというのが大きな課題であると考える。また、子どもたちも当日にキャンセルすることがたびたびあり、その時にならないと人数が確定しないのが難しいところである。また、子どもによって集中力のもち具合が異なり、3 時間という時間を有効に使えていないこともあったため、皆が集中して学習出来る雰囲気作りをしていきたい。

２．今後の展望

今回カレー作りという形をとったが、協力して一つのことをするという活動は、子どもたちのつながりを広げ、コミュニケーションをはかるのにとても有効であるということがわかったので、そのような活動をもっと提供していきたいと思う。また、同じ外国につながりを持っているという境遇にある子どもたちが、連続して参加してくれていることで、仲を深め、自分の悩みや不安などを話せるような仲間を見つけられるような場所にしたい。また、この活動をする中で、どのような点においても、周りとは違うということに悩んでしまう中学生という年齢で、自分のルーツが他の日本人の子たちと違うことを気にしている子とも出会った。そんな子どもたちにとって、自分のルーツについてプラスに考えられるきっかけを作れるような場所でありたいと考える。このように子どもたちの心の支援をしていきたいと考えると同時に、本当の学力は高く、熱意もあるのに、言語が違うために進路につまずいてしまうという子たちの力に少しでもなれるように、学習支援にも力をいれたいと考える。加えて、子どもたちのルーツの国の言語を話す機会も大切にしていかなければならないと考える。そのために、学校の先生方の力を借りたり、現在月に１度行っているパグアサとの勉強会も、他大学の学生とのつながりもできつつあるので、日本人スタッフ、留学生スタッフの数を共に増やし、参加者への周知にも努めていきたいと考える。